

事業団の皆さまには、日々、私たち親子へのご厚情に深く感謝申し上げます。

一月の事業団懇会に参加させていただきました。そこで、運営予算が年々厳しくなっており、児童発達支援センターの職員数を減らすことを検討しているとお伺いしました。

私事ではございますが、私には子どもが二人おり、1才2か月差の年子です。

現在は、5歳と4歳になり、以前と比べると子育てはずいぶん楽になりました。

しかし、1歳と2歳、2歳と3歳のころは、二人とも言葉を話せず、こちらの言葉掛けも伝わらず、自我は全開、二人が別々に動き回り、片時も目が離せず、大変でした。大人の足で徒歩5分のスーパーや小児科に行くのも、事故なくいけるだろうかと苦悩する日々でした。2対1で子育てしていても怪我をさせてしまったことも度々あります。

現在、私の下の子どもが軽度の発達障害でえのきはいむでお世話になっています。

園の子どもたちの中には、実年齢は4、5歳で、体格も良く、俊敏に動けても知的発達年齢は、一番手の掛かる2、3歳の子どもがたくさんいます。

私が時々園へ行くと、教室にいる全ての先生が体重15キロを超える体格のいい園児をおんぶしながら、別の園児の靴を履かせたり、教室の戸が開いた隙間から走り出そうとする園児を引き止めたりしている状況です。

先生方は、年子の子育てを経験した私以上に大変そうで、3つ子、4つ子の一番大変な時期の子育てのようです。

先生方は、そのような大変な中でも、どのようにすれば、園児が能力を発揮できるか、個別に工夫をして対応してくださっていて、本当に頭が下がる思いです。

しかし、これ以上、職員数が減ると、安全で質の良い療育を保障することは困難になってくるのではないかと感じております。

今一度、職員数削減を見直していただきますよう、心からお願い申し上げます。

堺市は、保育園の待機児童の問題など、子育て支援に関して、他に課題があることも、重々承知しておりますが、これ以上の予算削減はご容赦くださいますよう、心からお願い申し上げます。

貴重なお時間をさいってくださり、ありがとうございました。